

おのれ上野（こうずけ） 思い知ったかあ！
松の廊下に 響く喧騒（けんそう）
内匠頭（たくみのかみ）の 刃傷（にんじょう）に
皆打ち出（いで）て 止めに入（い）る
「お離し下され 梶川殿！」
武士の面子を 汚（けが）されて
浅野の心 烈火（れっか）に燃ゆる

石高（こくだか）五万 千の家臣を
すべて喪（うしな）う 覚悟の刃傷
内匠頭の 劍幕に
皆は驚き 後退り
「せめて一太刀 あと一太刀！」
恨みを込めて 振り上げる
浅野の刃 本懐（ほんかい）遂（と）げず

（風さそう 花よりもなお 我はまた
春の名残を いかにとやせん）

内匠頭の 切腹に
家臣の胸中 不審染め
「片岡すまぬ 無念じゃあ！」
後は頼むと 申し置き
内匠頭は 露と消えゆく